

黄色粘着紙を利用したオンシツコナジラミのモニタリング方法

1. 試験のねらい

I P M（総合的害虫管理）の推進に伴い、害虫の発生量を把握するためのモニタリングの重要性が指摘されている。そこで、トマトの重要害虫であるオンシツコナジラミについて、黄色粘着紙を用いた簡易的なモニタリング方法を検討した。

2. 試験方法

(1) 促成栽培

耕種概要 場所：農試ガラスハウス（7.4m×12.5m）、品種：瑞健、定植：平成9年11月4日。

処理方法 黄色粘着紙（catch-it、7cm×22.5cm、両面）を粘着面が地面に対して垂直かつ列に対して平行になるようにして条間の草冠部に2.5～3m間隔で設置した。

調査方法 平成10年2月24日から3月18日まで黄色粘着紙を連続して4日間ずつ設置し、1日毎に誘殺されたオンシツコナジラミ成虫数を調査した。また、1枚の黄色粘着紙に対して、これを挟んだ対角線上の2株について株あたりのオンシツコナジラミ成虫数を調査した。

(2) 抑制裁培

耕種概要 場所：農試ビニルハウス（4.5m×20m）、品種：桃太郎8、定植：平成10年6月26日。

処理方法 促成栽培と同一とした。

調査方法 平成10年8月10日から1週間間隔で4回黄色粘着紙を設置し、設置1日後のオンシツコナジラミ成虫誘殺数を調査した。また、株あたり成虫数についても促成栽培と同様に調査した。

3. 試験結果および考察

黄色粘着紙により1日間で誘殺されるオンシツコナジラミ成虫数(x)と株あたり成虫数(y)の関係は、以下のように示された。

促成栽培（冬春トマト） $y=13.526+0.480x$, $r=0.424$ （図－1）

抑制裁培（夏秋トマト） $y=2.597+0.881x$, $r=0.847$ （図－2）

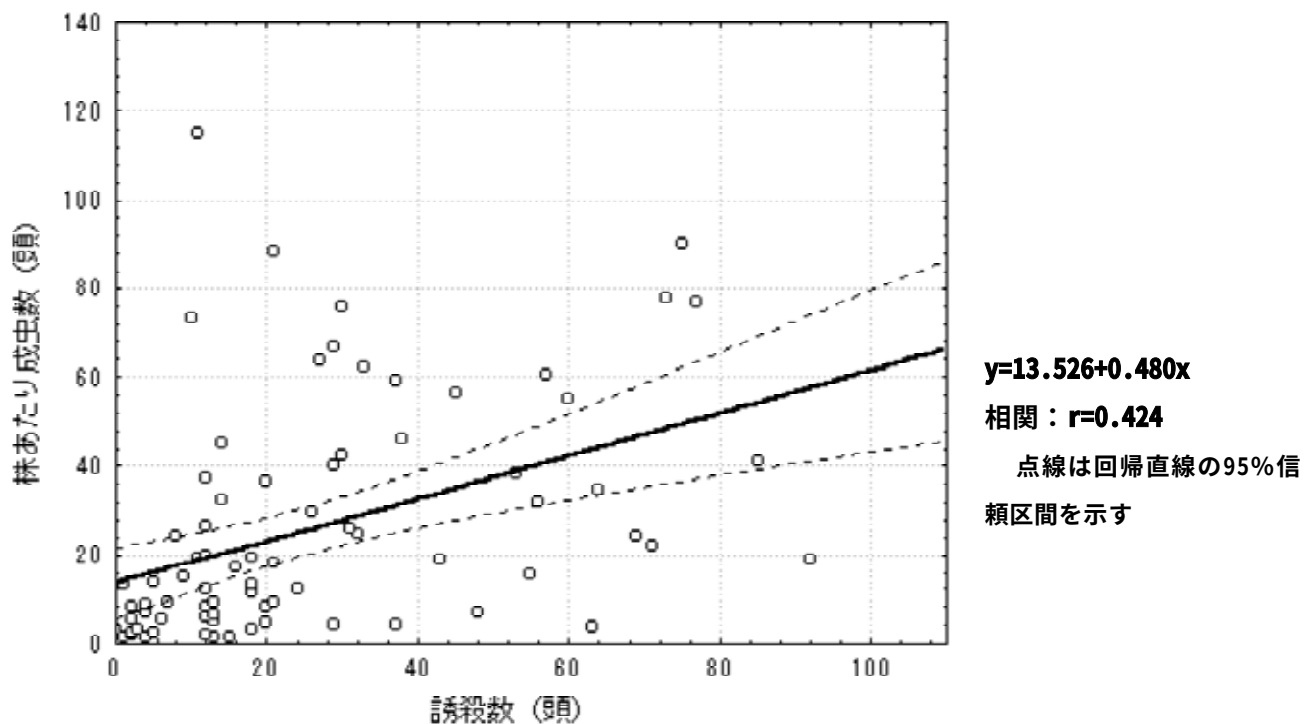
これらの相関係数(r)は、促成栽培・抑制裁培ともに1%水準で有意である。

抑制裁培に関しては相関が高く、黄色粘着紙を用いたオンシツコナジラミのモニタリング方法が有効であることが確認された。しかし、促成栽培に関しては回帰直線に対する95%信頼区間の幅が大きいため、この方法を用いたモニタリングは困難である。

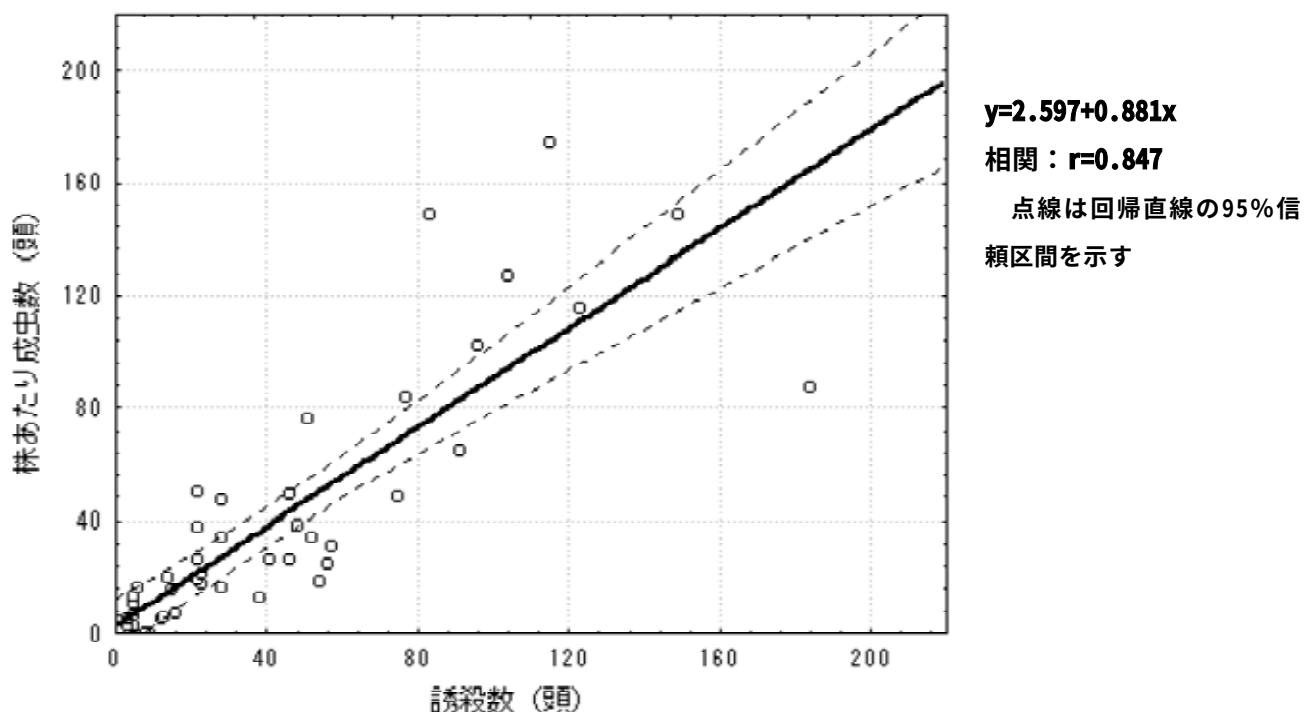
4. 成果の概要

抑制裁培トマトにおいて、黄色粘着紙を（7cm×22.5cm、両面）を草冠部に設置することにより、施設内のオンシツコナジラミ発生密度を概ね把握することができる。

（担当者 病理昆虫研究室 宮睦子）



図－1 促成栽培トマトにおけるオンシツコナジラミの株あたり成虫数と黄色粘着紙による誘殺数の関係



図－2 抑制裁培トマトにおけるオンシツコナジラミの株あたり成虫数と黄色粘着紙による誘殺数の関係